

# めぐみイエス・キリスト教会

2021年6月20日(日)第三主日礼拝  
週報「通算第562号」



## 2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌311「いかに恐るべき」 p. 494

【交読文】 No.8詩篇第24篇 p. 885

【賛美Ⅱ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.16「ラッパを吹き鳴らせ」

【聖書朗読】 使徒の働き9章23節～31節(新約p. 251下段)

【礼拝説教】 《エルサレムに着いて》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き9章23節～31節)

9:23 かなりの日数がたち、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、

9:24 彼らの陰謀はサウロの知るところとなった。彼らはサウロを殺そうと、昼も夜も町の門を見張っていた。

9:25 そこで、彼の弟子たちは夜の間にも彼を連れ出し、籠に乗せて町の城壁伝いにつり降ろした。

9:26 エルサレムに着いて、サウロは弟子たちの仲間に入ろうと試みたが、みな、彼が弟子であるとは信じず、彼を恐れていた。

9:27 しかし、バルナバはサウロを引き受けて、使徒たちのところに連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見た様子や、主が彼に語られたこと、また彼がダマスコでイエスの名によって大胆に語った様子を彼らに説明した。

9:28 サウロはエルサレムで使徒たちと自由に行き来し、主の御名によって大胆に語った。

9:29 また、ギリシア語を使うユダヤ人たちと語ったり、論じたりしていたが、彼らはサウロを殺そうと狙っていた。

9:30 それを知った兄弟たちは、彼をカイサリアに連れて下り、タルソへ送り出した。

9:31 こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地にわたり築き上げられて平安を得た。主を恐れ、聖霊に励まされて前進し続け、信者の数が増えていった。

### ●ポイント1.「かなりの日数がたち」とは？

#### ※ガラテヤ書1章15節～18節「アラビアからダマスコへ」(新約p.375上段)

1:15 しかし、母の胎にあるときから私を選び出し、恵みをもって召してくださいました神が、

1:16 異邦人の間に御子の福音を伝えるため、御子を私のうちに啓示することを良しとされたとき、私は血肉に相談することをせず、

1:17 私より先に使徒となった人たちに会うためにエルサレムに上ることもせず、すぐにアラビアに出て行き、再びダマスコに戻りました。

1:18 それから三年後に、私はケファを訪ねてエルサレムに上り、彼のもとに十五日間滞在しました。

### ●ポイント2. 城壁から「かご」に乗せられて吊り降ろされたこととは？

#### ※第Ⅱコリント11章33節～34節「パウロの証言から」(新約p.370下段)

11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、私を捕らえようとしてダマスコの人たちの町を見張りましたが、

11:33 私は窓からかごで城壁伝いにつり降ろされ、彼の手を逃れたのでした。

### ●ポイント3. 「バルナバ」とは？

#### ※使徒の働き4章36節～37節「慰めの子」(新約p.240下段)

キプロス生まれのレビ人で、使徒たちにバルナバ(訳すと、慰めの子)と呼ばれていたヨセフも、所有していた畑を売り、その代金を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

#### ※使徒の働き1章21節～26節「使徒職の補充から」(新約p.233下段右側)

## ◎先週のメッセージの概要【迫害者から伝道者へ】

《サウロはアナニアによって、目を開けられ、バプテスマを授かり、聖霊に満たされて罪が赦されました。しかし、彼がエルサレムにいた多くの聖徒たちを迫害し、死に追いやった事実は変わることはありません。

この後、同胞のユダヤ人からは、「裏切り者」とレッテルを貼られ、常に命を狙われることになって行きます。また、主にある兄弟姉妹からも、なかなか受け入れてもらえず、「殺人者」とレッテルを貼られ、白い目で見られることになって行きます。それゆえ必然的に、「異邦人」に目が向いて行くこととなります。しかし、そんなサウロにも、主イエスは助け人を用意されていたのです。その最初の人物こそがアナニアです。彼は、律法に従う敬虔な人で、ダマスコに住んでいるすべてのユダヤ人たちに評判の良い人物でありました。アナニアはサウロを信徒たちに紹介します。そして、サウロは、ただちに諸会堂で、イエスこそ神の子であると宣べ伝え始めます。これは衝撃的なことです。なぜなら、サンヘドリンから、ナザレのイエスの名を信じる者たちを捕縛する為に、ユダヤ兵と共に全権を委譲された、若きパリサイ人の議員が来ることを知らされていたからです。

「サウロは益々力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人たちをうろたえさせた」とあります。これこそが、聖霊に満たされている証拠です。主イエスは使徒たちに預言し約束されました。「聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」と。この預言は、使徒たちによっても成就しますが、実際には、パウロによって成就します。サウロは迫害者から伝道者へと、180度変えられた人生を送ります。このように人は、真の神様に会うと、180度変えられてしまうものなのです。まさしく救いは、新しい創造なのです。私達も180度変えられた者です。この世から御国へと引き上げられ、暗闇から光の中へ移されました。それは、それぞれの使命の為にです。》

## ◎お知らせ

※次回主日礼拝は6月27日(日)教会にて通常とおりに行ないます。聖書勉強会・祈り会は6月23日(水)各家庭にて行ないます。